

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 31 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21580271

研究課題名（和文）瀬戸内海沿岸漁獲物の需要拡大に寄与する水産物流通・消費のあり方の検討

研究課題名（英文）Examination of Distribution and Consumption of Fisheries Products : the Way to Contributes to Expansion of Demand of Fish Caught in the Seto Inland Sea  
研究代表者

矢野 泉（YANO IZUMI）

広島大学・大学院生物圏科学研究科・准教授

研究者番号：90289265

## 研究成果の概要（和文）：

本研究は、瀬戸内海沿岸漁業漁獲物の潜在的需要の発掘と、その供給システムの在り方を検討することを目的とした。地域の水産物需要は、全国画一化する傾向にあるものの、消費者の一定層において根強い生鮮地場水産物消費指向があることが確認できた。一方で、瀬戸内海沿岸漁獲物は地場以外での市場拡大は困難である点も明らかとなった。そのため、供給サイドにおける地場水産物や鮮魚取扱いの減少という現状の転換が緊急の課題となっている。

## 研究成果の概要（英文）：

This study aimed to examine the excavation of potential demand of the Seto Inland Sea coastal catches and the distribution system of those. It was found that there is a certain local demand of local fresh fish and also that it is difficult to find new market somewhere else. But, on the other hand, local market and retailers tended to decrease of local fresh fish dealings, which is a big factor to narrow the market of local fresh fish.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：食料市場学

科研費の分科・細目：農業経済学・農業経済学

キーワード：瀬戸内海、水産物消費、地場水産物、卸売市場、地域漁業、地域性、調理技術、消費者アンケート

## 1. 研究開始当初の背景

1970年代以降、生鮮食料品流通は川下、

とくに量販店を中心に再編されてきた。チェーン・オペレーションを展開する量販店は、センター納入等の大量取引を志向するとともに、取引相手に対し、定時・定量・定質・定価の四定条件を強く要請してきた。その結果、全国に分散する産地と大都市を中心とする消費地間を結ぶ生鮮食料品流通は、卸売市場を中心としながらも、卸売市場取引そのものの変化を伴いながら、効率的・安定的な大量広域供給システムとして整備されてきた。しかし、同時に、大量広域流通に見合う条件を持たない農水産物、産地、生産者、流通の担い手の、システムからの排除や食の画一化等の問題点も指摘されている。

生鮮食料品の中でも水産物は、特に生産の不安定性、季節性、漁場の限定性等自然条件の影響を強く受け、そのため供給の地域性を強くもつとともに、規格化、画一化が困難な商品である。こうした性格をもつ水産物を安定的かつ広域に流通させるために、わが国の水産物流通は産地市場と消費地市場という2段階の卸売市場流通を中心に構築されてきた。

瀬戸内海沿岸地域には、産地卸売市場として機能する水産物卸売市場が多く散在するが、上述の流通再編の流れの中で、小規模で非効率な取引形態や市場が淘汰されつつある。実際、価格形成機能や集分荷機能が果たされていない産地卸売市場も多くみられるようになってきており、その存在意義が問われている。また、瀬戸内海周辺には、古くから沿岸漁業や養殖業によって発展した沿岸部・島しょ部の地域が多くみられ、漁家の多くは小規模零細な家族経営である。小型底びき網漁等の沿岸漁業の漁獲物は、量的にまとまらない魚種、サイズがふぞろいな魚種が多く、消費者や量販店、中央卸売市場等、川中・川下側が求める量的・質的な安定供給への対

応が本来的に困難となっている。

以上より、瀬戸内海沿岸の地域漁業の振興には、単に漁業者の支援だけでなく、地域性のある魚種、少量多品目漁獲物の需要の受け皿として、地域性のある水産物消費の再評価と、零細な地域漁業と地域消費を結びつける水産物の地域内流通の担い手の維持と流通構造の再構築が不可欠である。

## 2. 研究の目的

本研究は、瀬戸内海沿岸の地域漁業の抱える問題に水産物の流通・消費面からアプローチし、地域漁業の活性化につながる水産物消費のあり方及び流通構造を提唱し、そのための課題や条件を明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

3つの課題について、以下のとおり調査・分析を実施した。

①「瀬戸内海沿岸地域における水産物消費の現状分析」については、「家計調査」等による統計を用いた水産物消費の全国的な動向分析を行なうとともに、瀬戸内海沿岸の都市圏消費者を対象としたアンケート調査とインタビュー調査及びプロトコル分析を行った。

②「瀬戸内海沿岸漁獲物の地場産水産物供給構造の再検討」については、瀬戸内海沿岸の水産物卸売市場や加工業者、専門小売におけるインタビュー調査を行った。

③「水産物卸売市場の役割」については、瀬戸内海沿岸の水産物中央卸売市場の卸売業者・仲卸業者・売買参加者、大都市水産物中央卸売市場水産物卸売業者・仲卸業者を対象とするインタビュー調査を行った。

## 4. 研究成果

本研究の成果として、第1に消費過程の特

徴として、水産物の消費は地域性が強く、さらに地域内において水産物の消費頻度の多い層ほど地場産の鮮魚を未加工で購買・消費する傾向、多様な方法で消費する傾向が明らかになった。第2に消費過程における消費拡大の要件の一つとして、家庭における生産過程を理解する教育として内食(家庭内での調理)が有効であることを明らかにした。第3に、供給サイドの課題として、瀬戸内海沿岸漁獲物の販路としては、地元消費者をターゲットとして質の高い鮮魚を提供する形で展開していくことが有望であることが明らかになった。

以上のことから、瀬戸内海沿岸都市での地場漁獲物の消費拡大のためには、消費地立地型水産物卸売市場において、近隣の産地立地型水産物卸売市場との連携により、鮮度のよい地場産水産物の取り扱いを強化することが求められる。また、地場水産物の流通分散段階においては、新鮮な地場水産物を取り扱う小売業者等への消費者のアクセス(情報面、物理面)改善が必要である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

1. 高橋祐哉・矢野泉(コレスポンドイング・オナー)、家庭における農業理解教育の役割、農業市場研究、第21巻第1号、査読有、2012(印刷中)
2. 矢野泉・天野通子・王丹陵・太田ひかり・小林和美、瀬戸内海沿岸地域における水産物消費の傾向—消費者アンケート調査を中心に—、農業水産経済研究、12巻、査読無、2012、pp33-43

[学会発表] (計2件)

1. 矢野泉、中央拠点市場化における地方都市中央卸売市場と地場農水産物の位置づけに関する考察、日本流通学会、2011年11月13日、東大阪市
2. 高橋祐哉・矢野泉、家庭における農業理解教育の役割、日本農業市場学会、2011年7月3日、鹿児島市

[図書] (計2件)

1. 矢野泉、食料生産と消費をつなぐ地域循環型社会にむけて—食品廃棄物問題とそのリサイクルの課題—、広大生物圏出版会、私たちの「食の安全・安心」と環境問題、93 (pp83-92)
2. 矢野泉、グローバル経済下の水産系残渣リサイクルの現状と課題、農文協、エコフィードの活用促進、2010、pp178 (pp83-92)

[その他]

1. 矢野泉、地域農業・漁業と市場問題(講演)、2010・ひろしま自治体学校、2010年12月5日
2. 矢野泉、食料生産と消費をつなぐ地域循環型社会にむけて—食品廃棄物問題とそのリサイクルの課題—(講演)、広島大学公開講座、2009年12月10日
3. 矢野泉、地域づくりとコミュニティ・ビジネス製品の品質論(講演)、コミュニティ・ビジネス振興支援講座、2009年11月18日

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

矢野 泉 (YANO IZUMI)

広島大学・大学院生物圏科学研究科・

准教授

研究者番号：90289265

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：